

テーマ：『 新たな知を作り上げる喜びを味わわせ、自然に感動できる子どもを育てる理科学習』

横須賀市 小学校理科研究会

Tel. 06-849-7566

担 当 芹澤 久和

者：



三浦半島の
地層観察会



ものがとける様子を
工夫して見てみよう！

■実践内容：

①子どもの理科離れが指摘されている中で、指導者である教師においても理科離れの傾向が出ている。これは、全教科の指導をすることが想定されている小学校教師であるにも関わらず、理科の指導に苦手意識を持っている教師が増加しているのである。そこで、本研究会として、教師の授業力の向上を図るために、研修会を開設するとともに、授業の指導資料になるデータをまとめることとした。

【具体的な取り組み】

科学工作教室……教師が、科学おもちゃ作りを通して、科学のおもしろさを知り、知識を身につける。

身近な素材を使って、3学年「明かりをつけよう」における、簡易テスタづくり等を行った。

ホテルの観察会……野外で見られる生物等を観察し、身近な自然についての理解を深める。

環境教育の観点で、ホテルが生息する環境について観察を通して考える。

三浦半島の地質観察会

市外や県外から赴任した教師が多くいることから、三浦半島の自然を観察を通して知り理解を深めるために全日日程でバスによる観察会を実施した。

他に、「バードウォッチング」「地域の環境を生かした施設見学」なども実施した。

②子どもに科学的なものの見方や考え方を醸成するためには、自然の事物や現象とどのように対峙させるのか？また、自分の問いを問題にまで練り上げ、友人との学び合い(練り上げ)を通して、知識として獲得するのかなど、子どもの学び方を構造的に分析し、指導法の改善を試みた。

■実践成果：

①初任者を含め、多くの教師が参加して事業が実施された。また、各事業の企画運営を、各分会の小学校理科担当者にしていただくことで、より積極的な研修が実施できた。

②各事業の講師役をして「元小学校理科研究会の会長」など、経験と豊富な知識を持ち合わせた方をお願いしたことは、単なる教材論だけでなく教師論まで含めた話になり、若年教師にとっては貴重な研修になった。

③勤務先の自然環境に子どもは目が向くが、その指導者としての教師にその価値が分からないのでは、学習がふくらまない。そこで、地域の自然を理解する研修会を実施したことは、その後の授業に大いに役立った。

④現在、学校だけで学習が完結することはない。地域にある各種施設との連携を図る中で、学習が広がり深まっていくと考え、その施設の活用法を研修したことは、利用手続きや教育的な価値を知る上で、貴重な研修になった。

⑤子どもが「遊び」の中で、科学の不思議さ・おもしろさ・巧みさを知るとともに、環境としての自然を大切にする心を育てることを考えて、わんぱくフェスティバルに参加した。その結果、多くの子ども(未就学児も含む)が、体験しながら自然に親しんで活動していた。

⑥授業研究会では、経験年数の違いがある中で、「教材論」「指導論」「評価論」などをぶつけながら指導計画を立て実践していた。そのことにより、若年教師の授業力が向上した。また、ミドルリーダーとしての教師は、指導助言する中で、より授業力が向上することにつながった。

■実践ポイント：

横須賀市理科研究会として、研究部・研修部という組織で、年間事業計画を策定し、各学校の理科担当者(理科主任)を活用する中で推進してきたことは、テーマへ迫るだけでなく、教師の授業力向上という成果を上げることができた。また、子どもの学び方を分析的に見ようとした「シンプトムを活用する取り組み」は、今後の理科学習を創り上げていくために大変有効であると考えて取り組んできたことは、「指導と評価の一体化」を図ることができた。

子どもは「分かりたいと思うもの」「できるようになりたいと思うもの」「知りたいと思うもの」という基本姿勢で授業づくりをしてきたことが今回の取り組みで有効であった。